

議 事 概 要 書

会議名称	令和7年度 第3回社会教育委員会会議（臨時会）及び教育委員との懇談
日 時	令和7年11月26日（水）視察：午後13時45分～午後2時45分 会議：午後 3時30分～午後5時00分
場 所	会議：伊那市役所 501会議室 / 視察：長谷地区
出席者	伊那市社会教育委員：9名（欠席1名） 教育委員：4名（欠席なし） 事務局：教育長、教育次長、生涯学習課長、生涯学習文化振興係長・係員
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
<p>1 開会（生涯学習課長）</p> <p>2 あいさつ（教育長、会長）</p> <p>3 自己紹介 教育委員⇒社会教育委員⇒事務局の順に自己紹介</p> <p>4 令和7年度社会教育委員の実践活動について（進行：生涯学習課長） ○イベント等参加報告、地域の話題（各委員から報告） ・八十二文化財団 古典文学講座 ・第20回伊那中央病院市民公用講座「足に良い靴どんな靴？」</p> <p>5 懇談（進行：会長） テーマ：伊那市生涯学習基本構想について ～生涯学習を推進するために、23～64歳の世代へどのような働きかけができるでしょうか～ （生涯学習文化振興係長からテーマの趣旨説明）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>伊那市生涯学習基本構想後期計画 施策大綱（3）23～64歳の世代 地域を担う人材の育成と学びの推進 基本計画① 社会貢献・地域を担う人材の育成 基本計画② 地域活動の参加促進 【策定の狙い】「地域にとって最も重要な戦力でありながら、多忙さゆえに地域との関わりが薄れがちな世代」である23～64歳に改めてアプローチすることで、個人の成長と地域全体の活性化を同時に実現していきたい。</p> </div> <p>グループ討議⇒各グループの代表者が討議内容を発表⇒全体まとめ</p> <p>【グループ討議】</p>	

- ①少子高齢化や人口減少の進行に伴う地域課題について各自ふせん紙に書き出し、それぞれ説明。グループで討議し、さらに掘り下げる。
- ②①に基づき、地域活動の新たな担い手を発掘するためにどのような施策・活動が考えられるか同様に討議。

【各グループの代表者が①②の討議内容を発表】

○1グループ（発表者：社会教育委員）

現状の課題について、大きく分けて5つあった。一つ目に、働き盛りの世代が子どもの習い事や送り迎えなどで多忙であり、大変なイメージがあるため区の役員に入りにくい。二つ目に、コロナ禍で中止となった地域の活動やお祭りの再開がみられない。三つ目に、子どもが進学等で県外に出た後、戻ってくることが少ない。四つ目に、地域の活動に小学生までは参加しても、中学生・高校生の参加が少ない。五つ目に、アパートなどで暮らす単身世帯が地域と関わる機会が少ない。

対策については、4つほどあった。一つ目に、子どもを軸に大人へ働きかける。子どものイベントに大人を引き込む、保護者同士のつながりを地域のつながりにつなげる、コロナ禍以降再開されていない育成会の活動を促すなど。二つ目に、地域をあげた活動を行い、連帯感に働きかける。三つ目に、移住者の存在が地域を活性化させる事例があるため、地域の魅力をつくり、移住者の力も借りて活動する。四つ目に、職場や企業へ働きかける。区の役員やPTAを引き受けた人への配慮や優遇を行ってもらうよう行政からも働きかけるなど。

○2グループ（発表者：社会教育委員）

現状の課題について、複数あった。「地域の担い手が減っている」「女性の役員が少ない」「行事の縮小を考えているが、なかなか意思統一ができない」「移住者との交流が今ひとつ盛り上がらない」「公民館の講座・文化祭等の参加者に高齢の方が多い」「コロナ禍以降、お祭りが復活しない」「地区の女性が集まる会や場がなくなった」「道を歩いている小中学生が少ない」など。

今後の対策については、やはり地区の活動の見直しが必要なのではないか。また、子どもが生まれると地域の行事に参加しやすくなるので、子どもたちに地域への愛着があれば、将来につながっていくのではないか。また、現状の課題で移住者との交流について意見が出たが、移住者は伊那を知りたがっているとも考えられるため、移住者をうまく巻き込んでいける活動があればという話が出た。また、市内の中学校で、地域の方達を呼んで英語や能の勉強などを行う活動があるそう。公民館の活動も、公民館で講座を設定するのではなく、「自分の学んだことを人に教えたい」という人を講師にした講座があってもいいのではないかという意見が出た。

○3グループ（発表者：社会教育委員）

1、2グループと同様だが、「23～64歳の世代で、地域を担う人材の学びの推進」という重いテーマで、基本的には「少子高齢化で年々参加者が減っており、どうすればいいのか」という意見や、「高齢化に伴い若い人が参加してくれなくなった」という意見が出た。

今後の対策についてはなかなか出てこないが、ある委員から「若い人の得意分野を活用

するのがいいのではないか」という意見が出た。例えば、サッカーが好きな30、40代の人がいれば放課後の時間に中学生と一緒にやっていただくなど。私の地区でも、そういう形で指導している若い人もいる。また、私の意見として、教育長のあいさつで「教育基本法において、生涯学習や社会教育は国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるように図っていくもの」というお話があったが、「地域を担う色々なことをやれば、自分の人格を磨き、豊かな人生を送れるようになるのではないか」と考えてもらえるような形でイベントを作り、「自分の人生にとってプラスになるからやろう」という方向にもっていければ、まさに教育基本法に則る形で、どこからも後ろ指を指されず良いのかなと思った。また、討議をする中で、やはり「地区の活動はきつい」という印象が基本的にあるので、それをどうやって工夫するか、今後も良い考えあれば私からも意見させていただければと思っている。

【全体まとめ：会長】

各グループの発表時に皆さんの様子を見ていたが、それぞれ頷いたり共感した様子であったり、その姿が印象深かった。グループで分かれて、忌憚のない思いを語り合えたことが一番良かったと思っている。働き盛りの世代の方をどう巻き込んでいくかはとても難しいことだが、各グループで「子どもを軸に働きかける」「得意な分野で公民館の講座を作ってもらおう」「伊那市の魅力を発信し、移住者と一緒に活動する」「イベントの見直しをする」等、多種多様な意見が出た。各自、各分野で発信していただき、市の方でも検討の上後期計画に反映していただきたい。どうかこれからもよろしくお願いしたい。

（進行：生涯学習課長）

生涯学習基本構想後期計画をこれから策定していくので、今日いただいたご意見も参考に進めていきたい。

6 その他

- ・今後の会議等予定について

上伊那地区社会教育委員研修会	令和8年1月
第4回社会教育委員会議	令和8年3月中旬

7 閉会（生涯学習課長）